

# 春の褒章

おめでとうございます

## 安達嘉夫さんに藍綬褒章

4月29日、内閣府から春の褒章受章者が発表され、町関係では、安達嘉夫さん（根雨）が藍綬褒章を受章されました。

受章コメント「裁判所の方など、多くの人に支えられながら、22年間、調停委員として活動してきました。調停委員の仕事は、サラ金や交通事故、土地境界などの民事トラブルを、当事者双方の言い分を聞きながら解決の手助けをすること。この仕事を通して、人間関係の複雑さや、修復の難しさを学びました。今回の受章は本当に思いもかけないことで、とても光栄に思います。また、今までお世話になった皆さんには本当に感謝しています」

# おしらせ information

## 春の行政相談週間

(5月21日～27日)

総務省では、行政相談・行政相談委員制度をより多くの人に知っていただくため、毎年「春の行政相談週間」を行っています。

皆さんの身の回りで、役所の仕事や手続き、サービスなどについて、苦情・困っていることがある、苦情を申し出たが納得がいかない、どこに相談してよいか分からない

いなどのことはありませんか。このようなときは行政相談をご利用ください。行政相談は、毎月1回、開発センターと町公民館で交互に開かれ、行政相談委員の山本武史さん（下黒坂）が相談にあっています。相談は無料で秘密は守られますので、お気軽にご相談ください。

なお、総務省鳥取行政評価事務所でも、随時相談を受け付けています。

相談・問合せ 鳥取行政評価事務所（電話0857 24

5542、行政苦情110番  
電話0570 090110

小型ガス瞬間湯沸かし器を使っている皆さんへ

小型ガス瞬間湯沸かし器を、換気扇を回さず使っていたために死亡する事故が発生しています。

小型ガス瞬間湯沸かし器を使うときは必ず換気扇を回すようにしましょう。

## 第35回 さつきまつり

6月4日（月）～6日（水）

時間：4日（月）＝午前10時～午後6時  
5日（火）＝午前8時30分～午後6時  
6日（水）＝午前8時30分～午後3時

場所：山村開発センター

町内のさつき・盆栽愛好者の作品展です。

来場者には、抽選でさつきや山野草をプレゼントします。さつき講習会もあります。

また、出品作品を募集しています。5月31日（木）までに長尾忠治さん（電話74-0302）までお申込みください。

問合せ 役場産業振興課（電話72-2101）

## 5月31日は世界禁煙デー

たばこの煙のない環境を

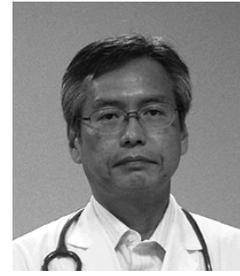
たばこの煙で汚染された空気には、約250種類以上の発がん物質や有毒物質が含まれています。これらを吸い込むと肺がんや心臓病、脳卒中といった様々な病気の原因となります。また、タバコの先から立ち登る煙は、喫煙者が吸っている煙よりも強い毒性があります。

5月31日から6月6日は禁煙週間です。この機会に、禁煙にチャレンジしませんか。また、あなたと周りの人の健康を、タバコの煙から守りましょう。

鳥取県では、禁煙・分煙施設の認定を行っています。認定施設には、ステッカーが貼ってあります。身の回りの環境も見直してみましよう。

問合せ 日野総合事務所福祉保健局  
保健衛生課指導係  
(電話72-2037)

## 病院長のひとりごと



日野病院長 檀田 豊

### 医師不足について

今回は、日野病院にとって大きな悩みの種である医師不足についてお話しさせていただきます。医療法施行規則における日野病院の医師の定員数は10人です。現在、常勤医師は7人のみであり（内科4人、外科2人、小児科1人）、10数人の非常勤医師により何とか定員割れをまぬかれている状況です。

私を含め日野病院の医師の平均的な勤務時間は週50時間程度になります。それとは別に月3〜4回の当直も行っており、当直の翌日も通常勤務をしなければなりません。従って、運営上の医師不足は法規上の医師不足以上に深刻です。

なぜ勤務時間が長くなるのかといえば、一昔前と異なり、医療現場では注射や投薬の指示、検査の予約、病歴の記録など業

務の何もかもが医師に集中していることが挙げられます。また、患者さん一人当たりに費やす時間も大幅に増えています。このような一般的な事情に加え、日野病院に特有な事情もあります。日野病院は、かつて主として急性期医療を提供してきましたが、現在は在宅医療や診療所活動など、地域に密着したさまざまなサービスも併せて提供、さらに老人保健施設の運営も行っています。このような体制変化により医師の業務は確実に増えています。過剰な業務は日野病院における医師不足の大きな原因ですが、もう一つの理由として、新医師臨床研修制度に伴う研修医の減少や独立行政法人化に伴う附属病院の診療体制の強化により、鳥取大学からの派遣医師の増員が困難になったことが考えられます。

以前より日野病院は医師の確保を鳥取大学に頼ってきました。現在も常勤医師のうち3人、非常勤医師の全ては鳥取大学からの派遣です。今のところ、鳥取大学には日野病院に

対して医師の引き上げや派遣停止の意図はないようですが、大学自体の医師不足がさらに深刻化、長期化すれば現実の問題になるかもしれません。

さて、この原稿を書くにあたって、日野病院の医師不足が日野町やその周辺にお住まいの皆さまにどのような影響を与えているかを検討してみようと思いました。その際に私の頭の中にあつたのは、「日野病院で医師が不足しているのだから、日野町も他の地域に比較して医師不足は深刻であり、そのための影響も大であろう」という仮説です。ところが結果は意に反したものでした。

図1は鳥取県の市町村別の医師数（人口10万人対）を多い順に並べたものです。日野町の医師数は226.7人で米子市、倉吉市、三朝町、鳥取市に次いで5番目に多いという結果でした。一方、図2は鳥取県

の市町村別の標準化死亡比を小さい順に並べたものです。標準化死亡比とは、年齢構成の差異を基準となる全国の年齢階級別死亡率で調整した値に対する現実の死亡数の比です。標準化死亡比<100は全国平均より死亡率が低い、>100は高いことを表します。日野町の標準化死亡比は75.5番目に小さいという結果でした。図3は標準化死亡比<100と標準化死亡比>100の市町村で医師数に差があるかどうかをみたものです。重なりは大きいのですが、推計学的には標準化死亡比<100の市町村の医師数は標準化死亡比>100の市町村に比較して有意に多いという結果でした。なお、図は全て鳥取県の

ホームページに公開されている統計資料に基づいて作成しました（<http://www.pref.tot>

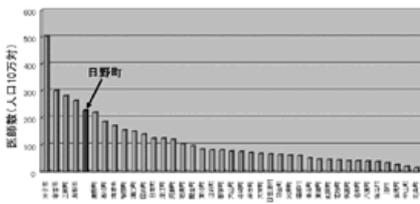


図1.鳥取県の市町村別の医師数(平成14年)

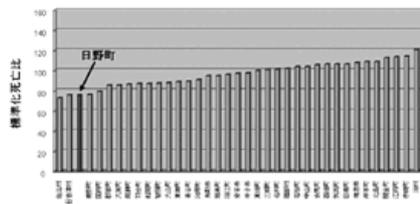


図2.鳥取県の市町村別標準化死亡比(平成14年)

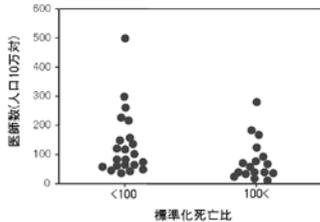


図3.鳥取県の医師数と標準化死亡比の比較

[torii.jp/fukushi/database/tiran-year.htm](http://torii.jp/fukushi/database/tiran-year.htm)

以上の結果から、市部を除けば医師不足は日野町以外の町村でさらに深刻なことが分かりました。また、医師数と死亡率（標準化死亡比）には疎密が有意な関係があり、医師数が他の地域に比べて多いことが日野町の死亡率を小さくしている可能性も示唆されました。そうであるとする、日野病院には今以上の医師数は必要ないという考え方も成り立ちそうです。しかし、実際には前述したように日野病院の医師数は病院運営に支障をきたすほど不足しています。さらに、日野病院の診療圏は日野町以外の地域にも及んでいることも考慮しなければなりません。

現在、日野病院としては医師を減らさない、出来れば増員するためにさまざまな取り組みを行っており、機会があればそのことについてお話ししたいと思えます。しかし、病院だけの取り組みに限界を感じていることも確かです。構成3町ならびに関係部局のご協力が不可欠です。また、この記事をご覧になった方で医師確保についてのご提案があれば病院のメールなどでお知らせいただければと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。